

浜松市市民協働センターのパートナーシップミーティングでPR

6月28日・29日に浜松市市民協働センターの「パートナーシップミーティング2014」に出展し、ネットワークの取組をパネル等でPRし、協働の相手を探す事業に参加しました。今回は、浜名湖畔に立地するネットワークの登録団体でもあるOMソーラーの社屋「地球のたまご」での実施でした。参加した多くの市民団体や企業とも出会い、情報交換も行いました。



庄内小学校で浜名湖のアマモを使った堆肥づくり講座

9月12日に庄内学園・浜松市立庄内小学校の小学2年生を対象に、浜名湖について学ぶ「浜名湖のアマモと堆肥づくり体験」の出前講座を行いました。

今回は、①アマモ+EM菌、②アマモ+もみ殻、③アマモ+竹粉の3種類の堆肥作りと花壇に種まきをしました。

EM菌を使った土づくりの指導は、EM倶楽部/湖西の方々に来て教えてもらいました。

アマモ自体は見たことがある児童が大半でしたが、昔は畑に使っていたことを知っている児童はほとんどいませんでした。浜名湖の環境や地域の歴史などを知らせてもらう機会となりました。



みんなで土を混ぜ、プランターに入れ、ビニール袋の中で発酵させて堆肥にします。

■新しい仲間が増えました（登録団体 82団体 2014.10.1現在）

浜名湖ガーデンパーク（指定管理者 浜名湖えんてつグループ）

☎053-488-1500 <http://www.hamanako-gardenpark.jp/>

浜名湖ガーデンパークでは、広々とした公園や公園内施設の利用・活用（場の提供）が可能です。

【事務局からのお知らせ】

はまなこ環境ネットワークの取組みは、ホームページやブログ、フェイスブックから見られます。

<http://www.hamanako-kankyo.net/> ブログ <http://kankyo.hamazo.tv/>

はまなこ環境ネットワーク 広報誌

発行/はまなこ環境ネットワーク

第22号

発行日/平成26年10月10日

事務局/NPO法人地域づくりサポートネット

浜松市中区常盤町133-13 TEL053-458-3480

Eメール info@shizuoka-t.net

はまなこ環境通信

今年の活動テーマは「浜名湖の上・下流域の森と湖の環境」

浜名湖は、2級河川都田川です。今年度は、都田川の上流域にある森林と下流域の湖の生きもの環境について、一般の方々に意識してもらうための活動を中心に展開します。上流域の森林は人が植えた人工林が多く、人の手が行き届かず荒れた山が増えています。

上流域の森の環境を守ることは浜名湖の生きものが棲む環境を守ることを子供たちなどにイベント等で説明しています。

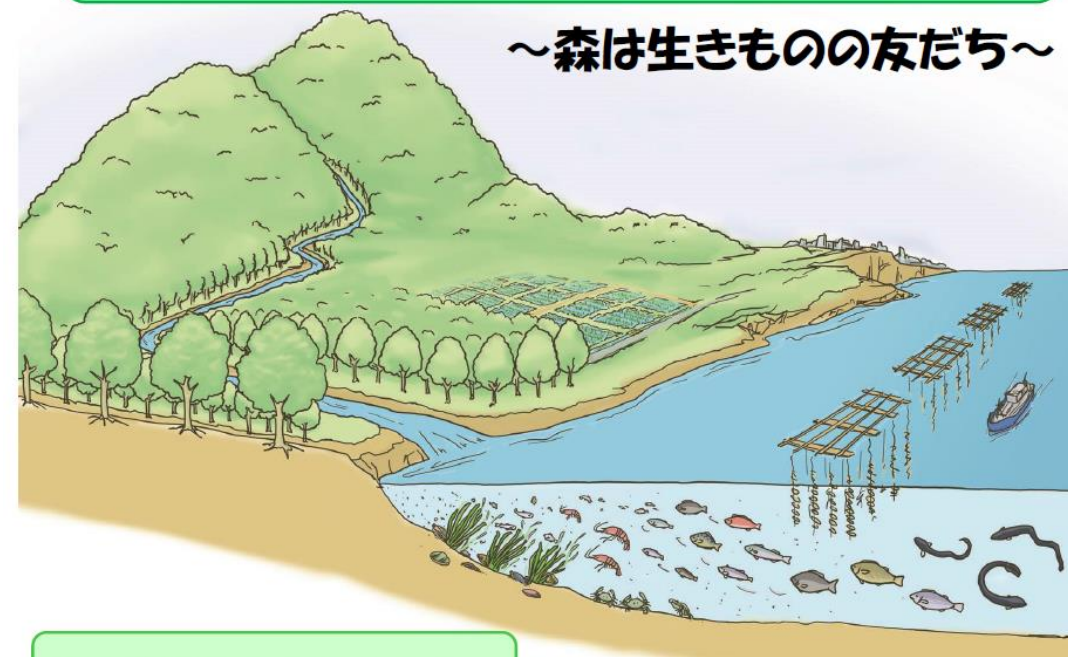
また、森の果たす役割なども理解してもらうための体験学習なども実施しています。



浜名湖ガーデンパークの「富士物産フェア」に出展して説明

森の環境を守ろう

～森は生きものの友だち～



浜名湖を支える森の栄養

上流の豊かな森の栄養が、浜名湖の生きものを育てています。生きものエサであるプランクトンは、川から流れ込む窒素やリン（落ち葉などが微生物によって分解されてできた栄養）を使って繁殖します。そのプランクトンを食べて魚などの生きものが生活しています。上流の森林から流れ込む栄養が少なくなると浜名湖の生きものも少なくなってしまう。「豊かな浜名湖」は「豊かな森」が育んでいます。

「アマモ」再利用プロジェクト(アマモ回収・野菜の種まき)

■7/20 アマモの回収

7月20日(日)アサヒビールさんからの寄附金を活用して館山寺温泉サンビーチ海岸に打ち上げられた「アマモ」を回収しました。今年は例年より打ち上げられるアマモの量は少なかったものの、地元の農家、館山寺町の子どもたち、市内のボーイスカウトのみなさん、はまなこ環境ネットワークの登録団体のボランティアなど約90名が参加。汗だくになりながら、みんなで力を合わせていたアマモを回収しました。ダンブカーは須山建設さんの提供。農家や企業×市民×NPO×観光事業者が協働して実施。



この日回収したアマモは、村櫛町の耕作放棄された畑や知久屋さんの畑、OMソーラーさんの畑、湖西市新居町の市民農園、地元グループの畑などいろいろな場所に運び、堆肥として活用していきます。

また、宮本肥料店さんは、アマモ+もみがらで堆肥にした「あまもみ堆肥」を商品化していきます。できあがったあまもみ堆肥は、子どもたちの体験会などの材料にも分けてもらいます(モノによる企業協賛)。

最後はきれいになったビーチでお楽しみ地引網体験。網に入った魚を「NPO法人はまなこ里海の会」の窪田事務局長から説明。

■9/13 アマモ野菜の種まき会

9月13日(土)は、浜松市西区村櫛町でNPO法人むらちゃネットが借りている耕作放棄した畑でアマモ堆肥の野菜の種まきを行いました。今回は、アマモだけ、アマモ+竹粉で発酵させる堆肥などいくつかのパターンで試してみました。

アマモ堆肥を入れ、そこに野菜の種をまいていきます。大根、白菜、人参など。収穫が楽しみです。



里山×里湖の恵みを利用した間伐材でアマモプランターづくり

9月13日・14日の2日間、浜名湖ガーデンパークで行われた「富士物産フェア」のPRブースに出展し、来場者に間伐材を使ったプランターづくり体験、竹資源をアマモ堆肥に活用するためのアマモ堆肥プランターづくりの体験、竹の粉碎機の実演などを行いました。



森林組合さんの協力で森の役割や森林と湖・海の関係を紹介していただきました。浜名湖遊船組合さんの協力でアマモとアマモ場にいる生きものを入れた「ミニ浜名湖水族館」も展示しました。



森の恵みである木。間伐材を使うことが森のため、浜名湖のためにも大切なことだと知ってもらうため、親子で間伐材プランターの組立てを行いました。森林組合の指導のもと、キリや金づちを使って一生懸命に組立。今日はパパの活躍の場。1日5回に分けた工作体験は大人気でした。

出来上がったプランターは、家に持ち帰り、プランターカバーとして利用してもらいます。

竹の粉とアマモを混ぜ合わせてアマモの堆肥づくりを体験。2ℓのペットボトルを活用して、家庭でアマモの堆肥づくりと野菜づくりが体験できるペットボトルプランターの制作も行いました。約1~2ヶ月で竹とアマモで堆肥ができれば、野菜の種をまいて小さな“マイ野菜畑”ができます。野菜のこと、環境のことを同時に学べます。

浜名湖は、上流の森林だけでなく、里山では放置された竹林も多く、竹の利活用も課題となっていることを知ってもらうため、丸大鉄工さんの協力により竹の粉碎機によるデモンストレーションを行いました。

今回のイベントでは、富士物産、丸大鉄工、天竜森林組合、EM倶楽部/湖西などの企業や市民団体ともコラボできる取組みで、参加者アンケートでは、浜名湖の上流の森林のこと、森と浜名湖の関係を知る機会であったとの評価をいただきました。

